ヴォイス（受身・可能）

竹　田　　晃　子

1　はじめに

本稿は，2005 年・2006 年・2007 年に行われた気仙沼市・南三陸地方における方言調査のうち，調査票の作成を筆者が担当したヴォイスについて報告するものである。

2005 年は気仙沼市の高年層 3 名を対象に，筆者が面接調査を行った。2006 年は気仙沼市の高年層から高校生までの 74 名を対象に，2007 年は南三陸地域における 80 代から 20 代の 41 名を対象に，筆者を含む調査者が分担して面接調査を行った。

本稿では，2005 年の伝統的気仙沼市方言の記述調査，2006 年の気仙沼市における多人数調査，2007 年の南三陸地方における分布調査の順に，調査結果を報告する。なお，調査における回答の表記について，注目する部分をカタカナ（下線付き）で示し，その共通語訳を文の後に（　）に入れて示す。また，それ以外の部分は漢字ひらがな交じりで示す。

2　伝統的方言の記述調査

2.1　調査の概要

2005 年の記述調査では，宮城県沿岸北部に位置する気仙沼市の伝統的方言におけるヴォイス（特に受身・可能）を把握し，特徴を明らかにすることを目的として調査を行った。特に，(1)受身文における動作主マーカーの使い分け（ニ／ニカッテ／サ）、(2)受身・自動詞表現との連続性、(3)共通語の「～てもらう」相当の表現での受身文使用、(4)共通語の受身文相当の表現での非受身文使用を確認することを目的とした調査票を用意した。共通語例文を当該方言に翻訳し，実際に発音してもらう方法で行い，場合によって予想語形を提示し，使用の有無や使い分けをたずねた。

話者は，2005 年・記述調査については次の 3 名である。本稿では，伝統的方言の記述調査を目的とするため，主に高年層の〔1937 男〕〔1938 男〕を対象とした調査結果について述べ，必要に応じて〔1956 男〕の回答に触れる。

生年	性別	年齢	言語形成期	調査年月日
1937(昭和 12)年	男	67	気仙沼市大島外畑	2005 年 7 月 31 日午後
1938(昭和 13)年	男	66	気仙沼市三日町	2005 年 8 月 1 日午前
1956(昭和 31)年	男	49	気仙沼市河原田	2005 年 8 月 1 日午後

2.2　受身表現

2.2.1　動作主を表す格助詞（ニ／カラ／サ／ニヨッテ）の使い分け

気仙沼市方言では，能動文のヲ／ニ格名詞句を受身文の主語にする直接受身文において，有情物から有情物への方向性がある動詞ではカラが回答された。

（1）あの先生ぁ，生徒たちガラ　信頼されてるな。

（2）武（タケシ）ぁ　お父さんガラ　おごられだ。

（3）昨日，武ぁ　お父さんガラ　仕事を頼まった。

（4）さっき，武ぁ　お父さんガラ　すぐ帰って来いと言われだっけ。

（5）武ぁ　犬ガラ　追かっけられだ。

非情物が動作を受ける受身文で，事実を叙述するような場合にはカラは用いられにくく，（6）（7）のようにニを用いた受身文か，（8）のように受身文ではなく能動文が回答される。

（6）その記事ぁ　河北新報の記者ニ　書がれだ。

（7）松島ぁ　芭蕉ニ　詠まれだとごろだ。

（8）白石城ぁ　白石市が建てだ。〈非受身文〉

能動文にない名詞句が受身文の主語になる間接受身文では，ニが用いられる。

（9）武ぁ　運動会で次郎ニ　前を走られだ。

（10）武ぁ　先生ニ　ライバルの次郎をほめられだ。

（11）傘　持たないで出かけたら，帰りに雨ニ　降られだ。

使役受身文ではニとカラが用いられる。カラは，特に迷惑の意味を表現したい場合に用いられ，ニカカッテは回答されなかった。

（12）武ニ／カラ　変な物を食べさせられだ。

（13）（期待していたのに）武ニ／カラ　本当にがっかりさせられだ。

2.2.2　授受文と受身文

方向性のある動作の受け手に恩恵がある場合，共通語では「てもらう」が使われるが，気仙沼市方言では受身文が使われやすい。気仙沼市方言では，「～てもらう」はほとんど回答されず，主に受身文が回答された。

（14）彼女から子供の頃の話　キカサレダ。（聞かせてもらった）

（15）友達のお母さんがら　りんご　オグラレダ。（送ってもらった）

（16）夏祭りで，うちの子供たちぁ　ボランティアの人たちがら　世話サレダ。（してもらった）

（17）今日の授業で先生がら　アデラレダガッタのに。（指名してほしかったのに）

（18）でぎれば　あんだに　スケライデ。（助けてもらいたい）

（19）そんなに余っているなら，少し　ユズラレに　行げばよがった。（譲ってもらいに）

2.3　可能表現

2.3.1　状況可能

状況可能の否定文では，動詞＋助動詞レルが用いられる。

(20) この着物　古くなったので　もう　キラレネ。(着ることができない)

許可がないために動作ができない文にも，助動詞レルが用いられる。

(21) 留守番　頼まったがら，今日は散歩に　イガレネ。(行くことができない)

(22) (家族に) 出かけるなと言われたから，今日は散歩に　イガレネ。(行くことができない)

上記のように，状況可能の否定文では主に動詞＋助動詞レルが用いられるが，可能動詞も用いられる。ただ，(23) のように暗くても少しは読めるような場合や，(24) のように泥まみれになってもよければ歩いて行ける場合など，程度問題であると認識された場合，動作を可能にする条件が状況よりも能力として解釈され，可能動詞も用いられることがある。

(23) この部屋　暗いがら，新聞　ヨマレネ／ヨメネ。(読むことができない)

(24) 道　悪いがら，この先は　イガレネ／イゲネ。(行くことができない)

肯定文では，動詞＋ノァイー／ヌイー／ナイー (以下，「動詞＋ノアイー類」と称する) と，動詞＋ニイーが用いられる。

(25) 今日は雨が降っていないから，この先もたぶん　イグノァイー／イグナイー／イグニイー。(行くことができる)

(26) 実際に歩いてみたら，最後まで　イグナイガッタ／イグニイガッタ。(行くことができた)

(27) 留守番　頼まれながったがら，今日は散歩にイグノァイー／イグナイー／イグニイー。(行くことができる)

(28) 電灯　明るいがら，新聞　ヨムナイー／ヨムニイー。(読むことができる)

(29) 目覚まし時計　あるがら，早ぐ　オギンナイー／オギンニイー。(起きることができる)

(30) 車　あるがら，早ぐ　クンナイー／クルニイー。(来ることができる)

東北方言における可能表現・肯定文には，広くニイーが用いられることが知られているが，『方言文法全国地図』第4巻の第173～179図では，気仙沼市 (字東八幡前，1973男) に，動詞＋ノアイー類が回答されている (一部，動詞＋ニイーと併用回答)。この，動詞＋ノアイー類は，『方言文法全国地図』においては，気仙沼市にみられる特徴的な形式である。一方で，東北方言の通信調査資料である小林好日資料 (1940年頃調査) にはこの形式が認められない。したがって，新しい形式である可能性が考えられる。今回の調査では，〔1956 男〕においてもこの形式が回答され，気仙沼市方言においては広く用いられる形式であることが明らかになった。

2.3.2　能力可能

能力可能の否定文では，可能動詞が用いられる。

(31) 足が遅いから，運動会で速く　ハシレネ。(走ることができない)

(32) うちの孫ぁ　まだ小さくて字を知らないがら本　ヨメネ。(読むことができない)

(33) 人間ぁ　空を　トベネ。(飛ぶことができない)

(34) 一人で五人前は　タベレネ／クエネ。(食べることができない)

肯定文では，動詞＋ノアイー類，動詞＋ニイーと可能動詞が回答される。可能動詞が用いられる

点で，状況可能の肯定文と異なる。

(35) 足ぁ　速いから，誰よりも速く　ハシンナイー／ハシレル。(走ることができる)

(36) 練習したら前よりずっと速く　ハシンナイグなった／ハシレルヨーニなった。(走れるようになった)

(37) 鳥は空を　トブニイー／トベル。(飛ぶことができる)

2.3.3　属性可能

属性可能の否定文では，動詞＋レルと可能動詞が用いられる。

(38) 河豚ぁ　毒があるから，クワレネ／カレネ。(食べることができない)

(39) この車ぁ　小さいので山の中のでこぼこ道を　ハシレネ。(走ることができない)

次の (40) のカガンネ (カガルの否定形) のように，自動詞相当の形式が用いられる場合もある。

(40) この万年筆ぁ　インクがなくて　カガンネ／カゲネ。(書くことができない)

肯定文では，動詞＋ノアイー類，動詞＋ニイー類と可能動詞の他に，動詞によっては (42) のカガルのような自動詞相当の形式が用いられる。

(41) この車ぁ　大きいので山の中のでこぼこ道を　ハシンナイー／ハシルニイー。(走ることができる)

(42) この万年筆ぁ　すらすらと　カグノァイー／カガル／カゲル。(書くことができる)

カガルのような自動詞相当の形式が存在する動詞は限られており，たとえば「走る」に対するハシラル，「食う」に対するクワルのような形式は確認されなかった。〔1956 男〕も同様である。

2.4　まとめ

東北方言における受身表現で動作主を表す格助詞には，ニ，カラ，サ，ニカカッテなどがある。共通語のカラは，「尊敬する」など感情の動きや「頼む」などやりとりを表す動詞による受身文にしか用いられないが，東北方言では「追いかける」のような物理的働きかけを表す動詞の受身文にもカラが用いられる。また，若年層では受身文の動作主においてサの使用率が高くなっていることが知られている。これらと比べると，気仙沼市方言では，カラは直接受身文で用いられ，ニは直接受身文のうち非情物が動作を受ける場合と間接受身文に用いられる。高年層においては，サ，ニカカッテが回答されなかった。

また，授受文と受身文については，共通語などで用いられる「－テモラウ」などの授受を表す形式が使われないわけではないのだが，受身形が代替形式として使われることが確認された。

可能表現においては，状況可能・否定文で動詞＋助動詞レルと可能動詞，状況可能・肯定文では動詞＋ノアイー類と動詞＋ニイーが用いられる。能力可能・否定文では可能動詞，肯定文では動詞＋ノアイー類，動詞＋ニイーと可能動詞が用いられる。属性可能・否定文では動詞＋レルと可能動詞，肯定文では動詞＋ノアイー類，動詞＋ニイー類と可能動詞の他に，カガルのような自動詞相当の形式が用いられる。

3　多人数調査

3.1　調査の概要

2006 年は，気仙沼市の高年層から高校生までの 74 名を対象に，動詞＋ノアイー類，動詞＋ニイー類，可能動詞，動詞＋助動詞レルの使い分けをみる目的で，次の状況可能の否定文・肯定文の面接調査を行った。

(43) 便せんがないので今は手紙を書くことができないよ。(状況可能・否定文)：表 1

(44) 便せんを用意したので今度は手紙を書くことができるよ。(状況可能・肯定文)：表 2

3.2　調査結果

調査結果を生年順に記号化し，表 1 にまとめた。性差も検討したが，ほとんど違いは見られず，年齢差による違いが大きいため，表 1 は生年によってまとめた。

否定文では，動詞＋助動詞レルと可能動詞が回答された。生年によって比較すると，高い年層（〔1926 男〕から〔1975 男〕まで）に可能動詞◎がやや少なく動詞＋助動詞レル▲が多いが，逆に，若い年層（〔1976 女〕から高校生）に動詞＋助動詞レル▲が少なく可能動詞◎が多い。

肯定文では，全般に可能動詞◎が回答されているが，より若い話者（〔1951 女〕から高校生にかけて）に特に多い。動詞＋ノアイー類☆，動詞＋ノイー♯，動詞＋ニイー※を別に示したが，使用すると年代の幅という点では差がみられる。動詞＋ノアイー類☆は若年層から高校生（〔1983 女〕以下）にも回答があるが，動詞＋ノイー♯は〔1940 男〕から〔1950 女〕の間，動詞＋ニイー※は高年層から〔1980 男〕までの間に回答が多く，高校生の回答は一名である。このことから形式の新古を推定すると，動詞＋ニイーが古く，動詞＋ノアイー類☆が比較的新しい形式とみることができる。前述のように，この動詞＋ノアイー類は，『方言文法全国地図』においては気仙沼市においてのみ回答されている特徴的な形式である。また，1940 年頃に調査された小林好日資料に動詞＋ノアイー類がないことを考えあわせると，動詞＋ノアイー類は，動詞＋ニイーが広く分布していたところに 1940 年以降に生じた新しい形式である可能性がある。一方，動詞＋レルは肯定文ではほとんど用いられない。

表1　気仙沼市方言・多人数調査における状況可能・否定文

	生年性別	カカレネ／カガレナイ	カケネ／カケナイ
	1926 男	▲	
	1927 女	▲	
	1928 男		◎
	1930 女		◎
	1930 男	▲	
	1931 男	▲	◎
60 代	1933 男	▲	
	1935 男	▲	
	1938 女	▲	
	1938 女	▲	
	1938 男	▲	
	1939 女	▲	◎
	1940 男	▲	◎
	1940 男	▲	◎
	1941 女	▲	
	1942 女	▲	◎
	1942 女	▲	
	1942 女	▲	
	1943 男		◎
	1943 男	▲	◎
	1943 男	▲	
50 代	1945 女	▲	
	1947 男	▲	◎
	1948 男	▲	
	1948 男	▲	
	1949 女		◎
	1950 女	▲	◎
	1950 女	▲	◎
	1950 女	▲	
	1950 女	▲	
	1951 女	▲	◎
	1953 男	▲	
	1955 男	▲	
	1956 女	▲	◎
	1956 男	▲	◎
40 代	1956 男	▲	

	生年性別	カカレネ／カガレナイ	カケネ／カケナイ
	1964 女		◎
	1967 女	▲	
	1969 女	▲	◎
	1972 女	▲	◎
	1975 男	▲	◎
	1976 女		◎
30 代	1976 女		◎
	1979 女		◎
	1980 男		◎
	1982 男		◎
	1983 女	▲	
	1984 女		◎
	1984 女		◎
20 代	1986 男	▲	◎
	1988 男		◎
	1989 女		◎
	1989 女	▲	
	1989 女	▲	◎
	1989 女		◎
	1989 女	▲	◎
	1989 女		◎
	1989 女		◎
	1989 女	▲	
	1989 男	▲	◎
	1989 男	▲	◎
	1989 男	▲	◎
	1989 男		◎
	1989 男	▲	◎
	1989 男		◎
	1989 男	▲	◎
	1989 男		◎
	1989 男	▲	◎
	1990 女	▲	
10 代	1990 女	▲	◎

表2　気仙沼市方言・多人数調査における状況可能・肯定文

	生年 性別	カク ノァイー	カク ノイー	カク ニイー	カケル◎/ カカレル▲
	1926 男	☆		※	◎
	1927 女	☆		※	
	1928 男				◎
	1930 女				
	1930 男	☆			
	1931 男	☆		※	◎
60 代	1933 男	☆			◎
	1935 男				◎
	1938 女			※	
	1938 女	☆			
	1938 男	☆			
	1939 女	☆			◎
	1940 男		#	※	◎
	1940 男	☆			◎
	1941 女			※	◎
	1942 女			※	◎
	1942 女	☆			
	1942 女			※	
	1943 男	☆			
	1943 男				◎
	1943 男			※	◎
50 代	1945 女				◎
	1947 男		#		
	1948 男			※	
	1948 男		#		
	1949 女			※	◎
	1950 女				◎▲
	1950 女	☆			◎
	1950 女		#		
	1950 女	☆			
	1951 女			※	◎
	1953 男				◎
	1955 男	☆		※	◎
	1956 女			※	◎
	1956 男				◎
40 代	1956 男			※	▲

	生年 性別	カク ノァイー	カク ノイー	カク ニイー	カケル◎/ カカレル▲
	1964 女				◎
	1967 女				
	1969 女			※	◎
	1972 女			※	◎
	1975 男				◎
30 代	1976 女				◎
	1976 女				◎
	1979 女				◎
	1980 男			※	◎
	1982 男				◎
	1983 女	☆			
	1984 女				◎
	1984 女				◎
20 代	1986 男	☆			◎
	1988 男				◎
	1989 女	☆			
	1989 女				◎
	1989 女	☆			
	1989 女				◎
	1989 女				◎
	1989 女				◎
	1989 女				◎
	1989 女				◎
	1989 男			※	◎
	1989 男				◎
	1989 男				◎
	1989 男				◎
	1989 男				◎
	1989 男				◎
	1989 男				◎
	1989 男				◎
	1989 男	☆			◎
	1990 女				◎
10 代	1990 女				◎

4　南三陸地方の分布調査

4.1　調査の概要

2007 年は，南三陸地域における 80 代から 20 代の 41 名を対象に，次の例文による面接調査を行った。(45)（46）は多人数調査と同じ例文である。

(45) 便せんがないので今は手紙を書くことができないよ。(状況可能・否定文)：図 2

(46) 便せんを用意したので今度は手紙を書くことができるよ。(状況可能・肯定文)：図 3

(47) この万年筆はインクがよく出るので，すらすら書くことができるよ。(属性可能・肯定文)：図 4

4.2　調査結果

本稿では，調査した話者のうち，生年が 1919-1930 年の話者を対象とし，20-30 代の 13 名を除外して分布を考察する。それらの調査地点は，図 1 のように，最北が岩手県下閉伊郡山田町，最南が宮城県石巻市となり，岩手県と宮城県の県境をはさむ 26 地点（話者 28 名）である（番号は調査時に便宜的に付けられた地点番号をそのまま利用した)。

以下，これらの分布調査の結果について，『方言文法全国地図』(1980 年頃調査）と比較しつつ述べる。

図 2 の状況可能・否定文では，ほぼ全域にカガレネ（動詞＋レル＋否定辞）が回答されており，これと重なるようにカゲネ（可能動詞＋否定辞）がやや南に分布する。また，カゲーネが釜石市平田と大船渡市盛に点在，カガラネ（自動詞カガル＋否定辞）が遠野市細腰にある。25 年ほど前の調査結果である『方言文法全国地図』の「読むことができない（状況可能・否定文)」では，ヨマレネ・ヨマエネ（動詞＋レル＋否定辞）は岩手県・宮城県の県境付近に分布し，岩手県側にヨメネ（可能動詞＋否定辞)，宮城県側にヨメネ（可能動詞＋否定辞）とその他（動詞＋コトガデキナイ類）が分布している。これと比べると，今回の調査結果は，併用ではあるが動詞＋レルと可能動詞の回答される範囲が広い。また，『方言文法全国地図』では，ヨメーネが岩手県中北部より北に分布したのに対して，今回の調査では，カゲーネは岩手県の県境付近でも回答された。

図 3 の状況可能・肯定文では，ほぼ全域でカグニイー（動詞＋ニイー）が回答されており，基本的な形式であることがわかる。調査地域の中ほどにあたる沿岸部の県境付近を中心に，カグノアイー（動詞＋ノアイー）が回答されており，カグニイーの中にカグノアイーが新たに生じたように見える。カゲル（可能動詞）は点在する。『方言文法全国地図』の「読むことができる」をみると，ヨムニイー（動詞＋ニイー）とヨメル（可能動詞）の分布のしかたはこれと大きな差はないが，ヨムノアイー（動詞＋ノアイー）は気仙沼市のみで回答されており，分布としての広がりはない。『方言

図 3 の状況可能・肯定文では，ほぼ全域でカグニイー（動詞＋ニイー）が回答されており，基本的な形式であることがわかる。調査地域の中ほどにあたる沿岸部の県境付近を中心に，カグノアイー（動詞＋ノアイー）が回答されており，カグニイーの中にカグノアイーが新たに生じたように見

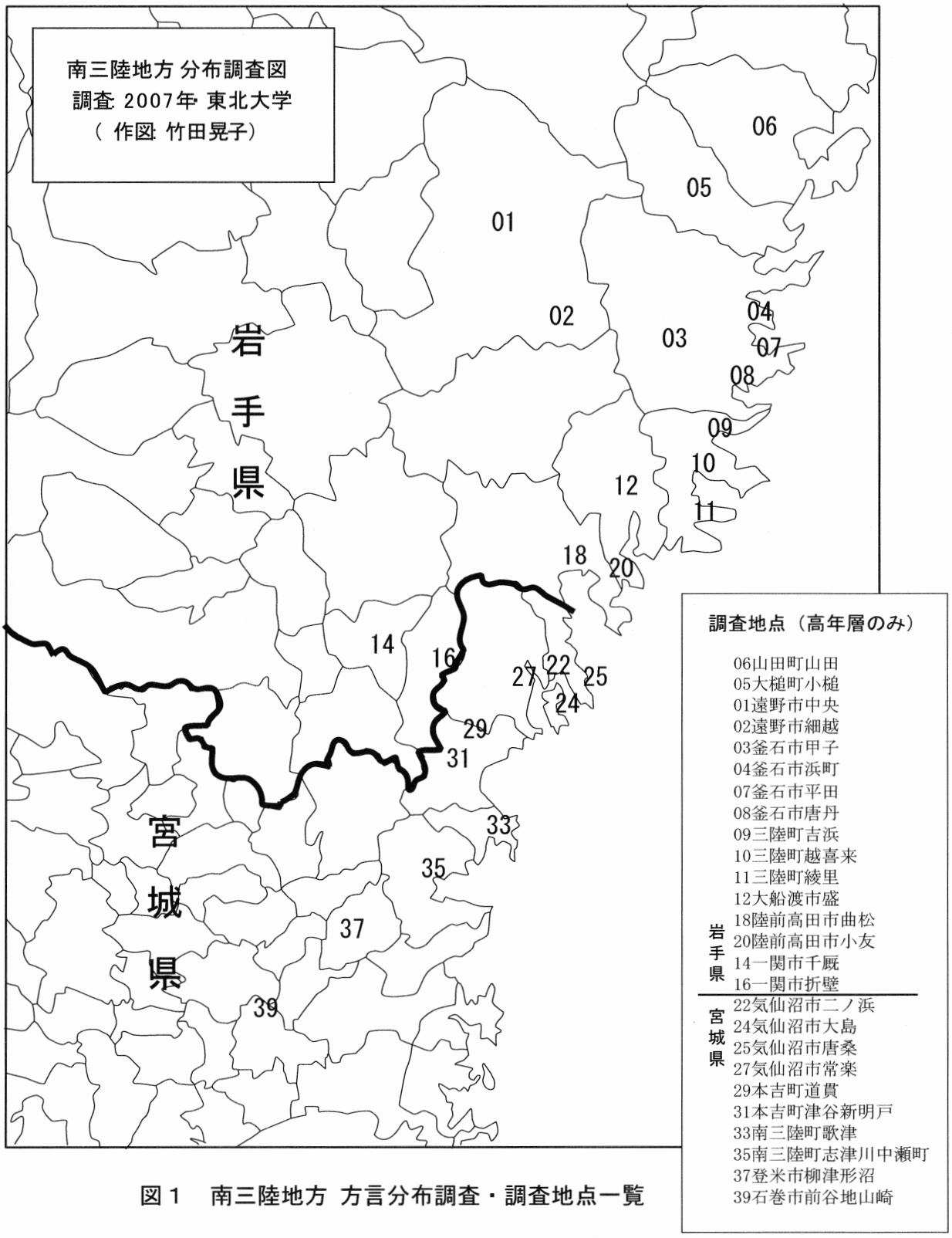

図１　南三陸地方 方言分布調査・調査地点一覧

える。カゲル（可能動詞）は点在する。『方言文法全国地図』の「読むことができる」をみると，ヨムニイー（動詞＋ニイー）とヨメル（可能動詞）の分布のしかたはこれと大きな差はないが，ヨムノアイー（動詞＋ノアイー）は気仙沼市のみで回答されており，分布としての広がりはない。『方言文法全国地図』の他の図ではこの内陸に1地点，動詞＋ノアイーが回答された場合があるが，今回の調査のように，沿岸部に南北に分布するという分布調査の結果は，管見のかぎりなかったようである。

図4の属性可能・肯定文では，主に併用回答だが，南にカグニイー（動詞＋ニイー）とカグノアイー（動詞＋ノアイー）が主に分布し，北にカガサル（動詞＋サル）が分布する。カグニイーについてはほぼ同様の分布だが，カグノアイーは県境付近に多く分布する点で図3と同様である。動詞＋サルは，他の先行研究や『方言文法全国地図』181 図では東北地方では青森県・秋田県の他に岩手県の中北部（旧南部藩地域）で用いられることが報告されている形式で，旧伊達藩地域（この図では釜石市以南）ではあまり報告がない。また，カガサルと平行してカガルも比較的広い地域で回答されているが，『方言文法全国地図』にはこの形式は回答されていない。一方，『方言文法全国地図』ではカガレル（動詞＋レル）も回答されているが，今回の調査では回答されなかった。

以上，分布についてまとめると以下のようになる。

①状況可能・否定文で，動詞＋レルが広く分布し，可能動詞が併用されている。

②状況可能・否定文で，カゲーネが『方言文法全国地図』に比べてやや南でも回答された。

③状況可能・肯定文で，動詞＋ニイーが分布するなかで，動詞＋ノアイーの分布が気仙沼を中心として沿岸部の南北に広がりつつあるようにみえる。

④属性可能・肯定文で，動詞＋サルの分布が北から南へと広がっているようにみえる。

⑤属性可能・肯定文で，カガルが回答され，動詞＋レルが回答されなかった。

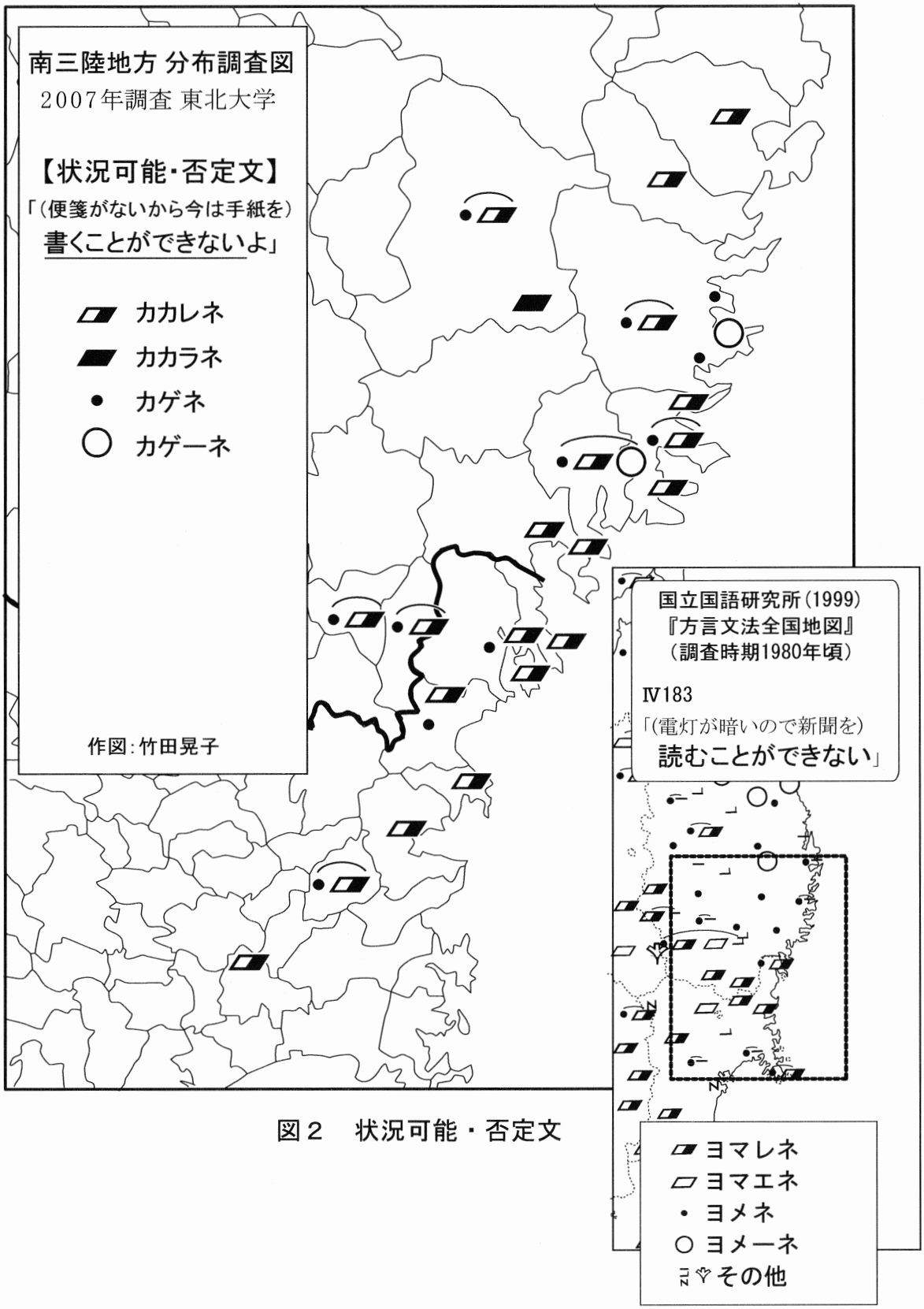
南三陸地方 分布調査図
2007年調査 東北大学
【状況可能・否定文】
「(便箋がないから今は手紙を)
書くことができないよ」
カカレネ
カカラネ
カゲネ
カゲーネ
作図:竹田晃子
国立国語研究所(1999)
『方言文法全国地図』
(調査時期1980年頃)
Ⅳ183
「(電灯が暗いので新聞を)
読むことができない」
ヨマレネ
ヨマエネ
ヨメネ
ヨメーネ
その他

図２　状況可能・否定文

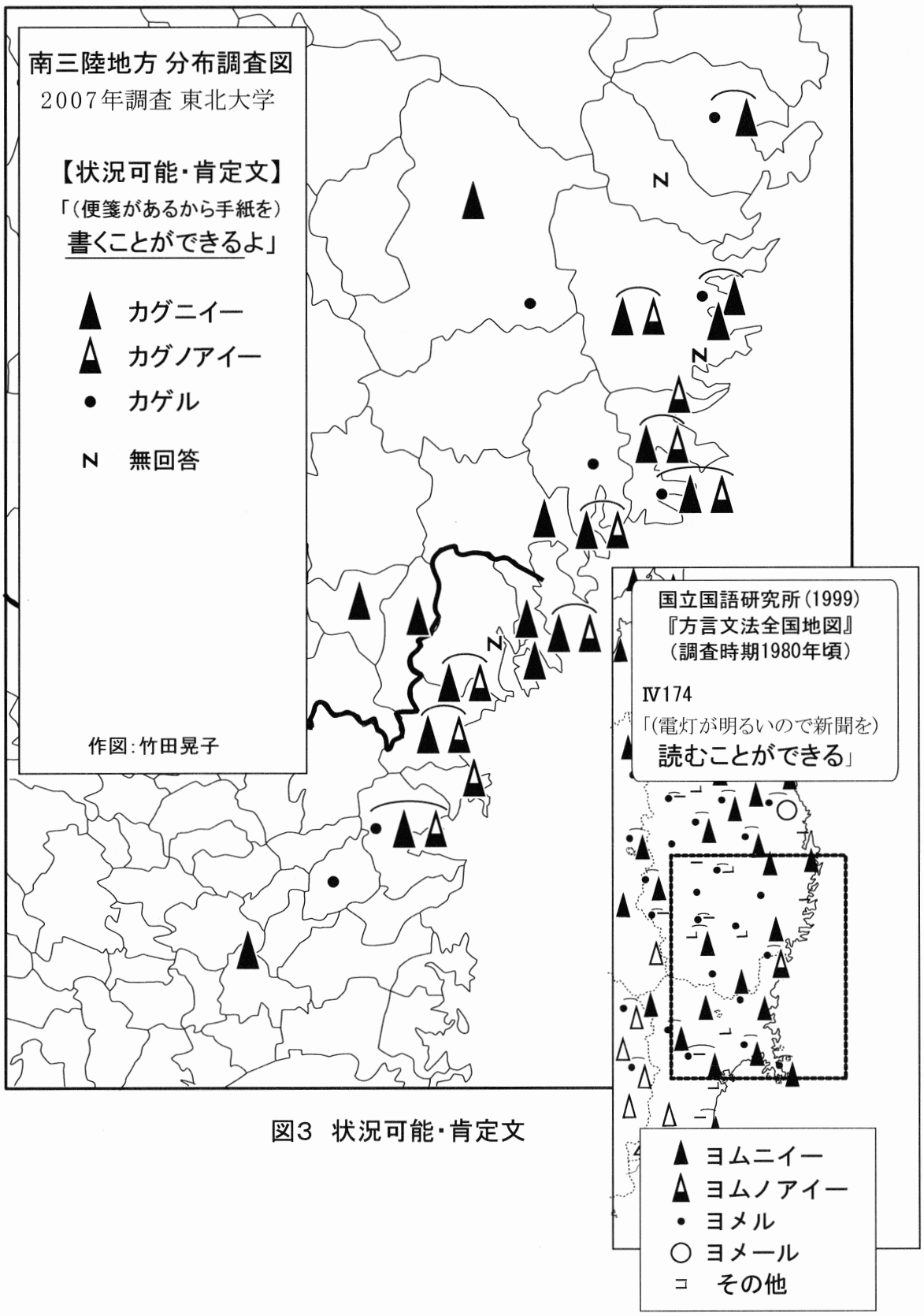
南三陸地方 分布調査図
2007年調査 東北大学
【状況可能・肯定文】
「(便箋があるから手紙を)
書くことができるよ」
カグニイー
カグノアイー
カゲル
N 無回答
作図:竹田晃子
国立国語研究所(1999)
『方言文法全国地図』
(調査時期1980年頃)
Ⅳ174
「(電灯が明るいので新聞を)
読むことができる」
ヨムニイー
ヨムノアイー
ヨメル
ヨメール
その他

図3 状況可能・肯定文

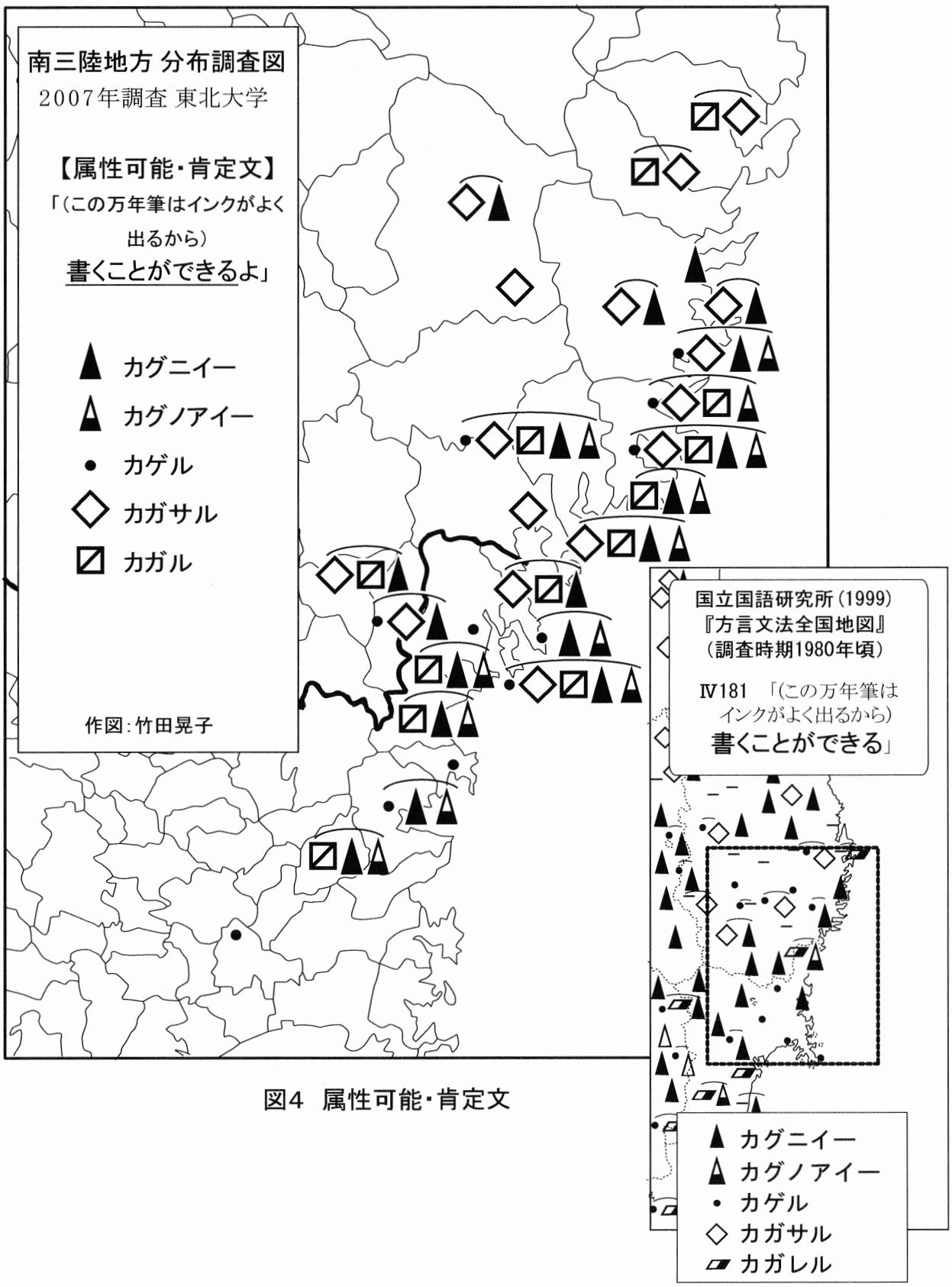
南三陸地方 分布調査図
2007年調査 東北大学
【属性可能・肯定文】
「(この万年筆はインクがよく出るから)
書くことができるよ」
カグニイー
カグノアイー
カゲル
カガサル
カガル
作図:竹田晃子
国立国語研究所(1999)
『方言文法全国地図』
(調査時期1980年頃)
Ⅳ181 「(この万年筆はインクがよく出るから)
書くことができる」
カグニイー
カグノアイー
カゲル
カガサル
カガレル

図4 属性可能・肯定文

5　おわりに

本稿では，気仙沼市における伝統的方言の記述調査，多人数調査，南三陸地方の分布調査におけるヴォイスの調査結果についてみてきた。本稿で述べたことをまとめるとつぎのようになる。

伝統的気仙沼市方言では，カラは直接受身文，ニは主に直接受身文で回答されたほか，共通語などで用いられる「－テモラウ」などの授受を表す形式の代わりに受身形が使われることが明らかになった。また，可能表現について特筆すべきこととしては，肯定文で動詞＋ノアイー類が用いられることと，特に属性可能・肯定文でカガルのような自動詞相当の形式が用いられることがある。

気仙沼市方言の年代差については，状況可能・否定文では高い年層に動詞＋助動詞レルが多く，否定文・肯定文ともに若年層に可能動詞が多い。また，動詞＋ノアイー類は若年層にも幅広く回答があるが，動詞＋ニイーは高年層から中年層に回答が多いことから，動詞＋ニイーはやや古い形式で，動詞＋ノアイー類が比較的新しい形式と考えられる。

南三陸地方の分布については，特に，次の 3 点が新たに明らかになった。1 点目として，状況可能・否定文でカゲーネが『方言文法全国地図』に比べてやや南でも回答された。2 点目は，状況可能・肯定文では動詞＋ニイーの分布域の中で動詞＋ノアイーの分布が気仙沼を中心として沿岸部の南北に広がりつつあるようにみえることが明らかになった。3 点目は，属性可能・肯定文で，動詞＋サルの分布が北から南へと広がっているようにみえることがわかった。

今後の課題として，まずはこの地域の特色として，授受表現での受身形使用や，可能表現の動詞＋ノアイー，自動詞相当のカガルや，動詞＋サルなどの形式が内陸にむかってどのような分布域をもっているかがあげられる。

文　献

国立国語研究所(1999)『方言文法全国地図』4，財務省印刷局

渋谷勝己(2001「書評　国立国語研究所編『方言文法全国地図４』」『国語学』52-4

渋谷勝己(2006)「第２章　自発・可能」小林隆他編『シリーズ方言学２　方言の文法』岩波書店

竹田晃子(2005)「東北方言分布資料の存在と意義―小林好日氏による東北方言通信調査―」『方言の記録と保存』東北大学文学部シンポジウム資料

竹田晃子(2006)「特集・地図に見る方言文法―読むことができる〔能力可能・状況可能〕」『月刊言語』35-12，大修館書店

竹田晃子(2007)「可能表現形式の使い分けと分布―能力可能・状況可能，肯定文・否定文―」『日本語学』26 巻 11 号，明治書院

三井はるみ(2000)「日本語の中の多様性」『豊かな言語生活のために』国立国語研究所